

☆☆

このメールマガジンは、普及事業に関する情報などを、登録された皆様に無料でお届けするものです。もし、まわりに登録されていない方がいましたら、ぜひ登録をお勧めください。

登録先は、<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>をご覧ください。

☆☆

- 【技術普及課からのお知らせ】**
 - ☆平成26年度新品種・新技術コーディネーター研修の受講生募集について
- 【農林水産技術会議事務局からのお知らせ】**
 - ☆農林水産技術会議事務局から研究成果情報等のお知らせ
 - ☆「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」に基づき導入が期待される技術リスト及び「最近の有用な農業技術」のホームページ更新について
- 【施策情報】**
 - ☆海外から植物を郵便等で輸入する場合には植物検疫が必要です
 - ☆地理的表示法（特定農林水産物等の名称の保護に関する法律）が公布されました
- 【セミナーや補助事業等のお知らせ】**
 - ☆一般社団法人アグリフューチャージャパン主催「農業経営力養成講座 夏季セミナー」のご案内
 - ☆フード・アクション・ニッポン アワード2014募集開始のお知らせ
 - ☆平成26年度契約野菜収入確保モデル事業の参加者の募集について（野菜の契約取引に関する事業のお知らせ）

ページ (1)

当研修会の受講対象者は、産地のブランド化を目指すコーディネーターの方を想定しております。普及指導員以外の方も無料で受講できますので、積極的なご応募をお待ちしております。

※お問い合わせ先

一般社団法人全国農業改良普及支援協会

(担当：栗田) (03-5561-9562)

E-mail: shinhinsyu@jadea.jp

農林水産省 生産局 農産部 技術普及課 研修指導班(担当：山田)

(03-3501-3769)

++・…… 農林水産技術会議事務局からのお知らせ ……・++

=====

◆農林水産技術会議事務局から研究成果情報等のお知らせ

【農林水産技術会議事務局総務課】

=====

農林水産技術会議事務局では、生産現場を革新する可能性のある成果等を「食と農の研究メールマガジン」で月2回配信しています。

その中から、普及指導員の皆様に産地の課題解決にご活用いただける情報を以下のとおりご紹介いたします。

●平成26年度「農業技術功労者表彰」における候補者の募集開始

農業その他関連産業に関する研究開発の一層の発展及び農業技術者の意欲向上に資するため、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会との共催により、農業技術の研究や普及指導などに顕著な功績があった者の表彰を実施しております。この度、候補者募集を開始しましたので皆様からの多数のご応募をお待ちしています。

応募期限：平成26年9月1日(月曜日)

[農林水産技術会議事務局]

<http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/140630.htm>

●「国際共同研究推進事業」の公募開始

農林水産省では、国際共同研究による「世界的人口増を支える食料の安定的生産拡大」に資する研究開発を促進するため、国際共同研究プロジェクトを実施するための事前調査・調整を支援する事業の公募を開始しました。

皆様からの多数のご応募をお待ちしています。

公募期限：平成26年7月31日(木曜日)17時迄

[農林水産技術会議事務局]

http://www.s.affrc.go.jp/docs/research_international/2014/koubo_international_research.htm

●高純度セラミドを工業的に連続生産する技術を開発

—新たなセラミドの活用法が期待—

米ぬかから95%以上の高純度セラミドを工業的に連続生産する技術を開発しました。高純度なセラミドは色、臭いがほとんどなく、化粧品や医薬品、研究用途として新たな活用法が期待できます。

本技術は米ぬか以外のものを素材とする植物セラミドにも応用が可能です。セラミド素材ごとの高純度セラミドの効能の評価が可能となり、より効能の高いセラミド製品の開発への展開が期待されます。

[農研機構 東北農業研究センター]

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/052975.html

- シカによる牧草被害を見える化 -迅速な被害対策の導入を支援-
シカによる牧草被害額を簡便に評価し、被害対策に必要な資材費とコスト比較により、対策導入の要否を迅速に判断できる方法を開発しました。
本方法を活用することにより、シカによる牧草被害を“見える化”し、費用対効果の高い被害対策を実施することができます。

[農研機構 畜産草地研究所]

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nilgs/052942.html

- アサガオから花の寿命を調節する遺伝子を発見
-花の日持ちを延ばす新技術の開発に期待-
アサガオの花の寿命(老化)を調節する遺伝子を特定しました。
特定した遺伝子の働きを抑えたアサガオでは、花の寿命が約2倍に延びました。
本成果により、花の日持ちを延ばす新技術の開発が期待されます。

[農研機構 花き研究所]

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/flower/053017.html

- 「飛ばないナミテントウ」が利用可能に
-施設野菜でのアブラムシ防除に強力でやさしい味方誕生-
天敵製剤として「飛ばないナミテントウ」の販売が始まりました。
初めての方にもわかりやすい利用マニュアルを発行しました。
施設野菜栽培でのアブラムシ防除に幅広い作目での利用が可能です。
従来のナミテントウ製剤に比べ、防除効果が持続します。

[農研機構 近畿中国四国農業研究センター]

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/052752.html

- 世界初、ガラス化保存未成熟卵子から子ブタを生産
ガラス化保存ブタ未成熟卵子の加温温度の最適化により、加温後の卵子の生存率が20%向上し、胚盤胞期への発生率が1.6倍に向上します。
この手法で、世界初のガラス化保存卵子由来の子ブタを生産しました。
卵子による保存が可能となったことから、ブタ遺伝資源の安定的な保存につながります。

[農研機構、農業生物資源研究所、麻布大学]

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nilgs/052599.html

- イネ縞葉枯病のまん延防止に向けた新たな取り組み
-研修会の開催と情報サイトの開設のご案内-
イネ縞葉枯ウイルスを保毒するヒメトビウンカの簡易検定法を開発しました。
「イネ縞葉枯病ウイルスを保毒するヒメトビウンカの簡易検定法及びイネ縞葉枯病の防除対策に関する研修会」を9月～11月に開催します。
イネ縞葉枯病の防除対策がよく分かる情報サイトを開設しました。

[農研機構 中央農業総合研究センター]

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/narc/052593.html

- 「食と農の研究メールマガジン」についてのお問い合わせ先
農林水産技術会議事務局 総務課(担当:吉田)(03-3502-7407)
※上記の品種・技術についての内容は、各機関に直接お問い合わせ願います。

=====

◆「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」に基づき導入が期待される技術リスト及び「最近の有用な農業技術」のホームページ更新について
【農林水産技術会議事務局研究推進課】

=====

今後、地域において栽培・品質管理の徹底等による「強み」をもたらす産地形成に向けた取組が速やかに進められるよう、全国の農業関係の研究機関が近年開発した技術（「農業新技術200X」の候補としてこれまでに収集したもの）のうち、平成25年12月にまとめられた「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」に基づき生産現場への普及が期待されるものを品目別にリストアップし、以下のホームページで紹介しています。このたび、新たに掲載技術を追加しましたので、お知らせします。

地域における産地形成の取組等のツールとしてご活用ください。

※詳細は以下のページをご覧ください。

<http://www.s.affrc.go.jp/docs/gizyutu/gaiyo.htm>

また、全国の農業関係の研究機関が近年開発した、生産現場で活用が期待される主要な研究成果について、開発機関の地域別、対応する作物別等に整理し、以下のホームページで紹介しています。このたび、新たに掲載成果を追加しましたので、併せてお知らせします。

※詳細は以下のページをご覧ください。

http://www.s.affrc.go.jp/docs/useful_recent/useful_recent.htm

※お問い合わせ先

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課（担当：津田、高橋）
（03-3502-7462）

●-----●

++・…… 施策情報 ……・++

=====

◆海外から植物を郵便等で輸入する場合には植物検疫が必要です
【消費・安全局植物防疫課】

=====

海外からの植物の輸入には、その植物に病害虫が付着している可能性がありますので、我が国の農業に被害が生じないように、相手国に必要な検査を求めるとともに、輸入の際に、我が国において植物検疫を実施しています。育種や新品種の導入のため、各都道府県や農家の方々が輸入する種等の種苗類についても、植物検疫を受け、病害虫がないことの確認が必要となります。

このような植物検疫制度については、これまでもご理解いただいているものと存じますが、特に郵便等で輸入される場合、相手国での必要な検査が行われない場合や、日本での植物検疫も受けずに輸入される例が発生しています。

我が国農業を守るため、このような例が発生しないよう、植物検疫制度への理解を一層深めていただくとともに、必要に応じ関係者への周知をお願いします。

【郵便での検査の流れ：（３）の合格の証印が無い場合には植物防疫所へ連絡を】

- （１）郵便の外装に種子等の植物が入っていることを明記するよう輸出者に依頼します。
- （２）通関手続が行われる郵便局で植物防疫官により植物検疫が行われます。
- （３）植物検疫で問題なければ、外装に合格した旨の証印が押印され、また、検査で開封したため「植物検疫」と記載されたテープで封がされ、配達されます。

※植物検疫の概要については植物防疫所HPでもご確認いただけます。
<http://www.maff.go.jp/pps/>

※本記事に関するお問い合わせ先
農林水産省 消費・安全局 植物防疫課（担当：中園）
（03-3502-5978）

=====

◆地理的表示法（特定農林水産物等の名称の保護に関する法律）が公布されました
【食料産業局新事業創出課】

=====

地域には長年培われた特別の生産方法や気候・風土・土壌などの生産地の特性により、高い品質と評価を獲得するに至った産品が多く存在しています。これら産品の名称を知的財産として保護する制度が「地理的表示保護制度」です。農林水産物・食品についての「地理的表示」を保護する制度を我が国に導入するため、地理的表示法（特定農林水産物等の名称の保護に関する法律）が今国会で可決・成立し、本年6月25日に公布されました。

本制度の導入を通じて、それらの生産業者の利益の保護を図ると同時に、農林水産業や関連産業の発展、消費者の利益を図るよう取組を進めてまいります。

平成27年6月までに制度の運用をスタートすることとしています。今後、制度の細部を検討し、できるかぎり早い段階で、以下のホームページ等を通じてお示ししたいと考えています。各都道府県のブランド戦略と併せて、本制度の普及指導活動の中で周知していただけますとありがたいです。

http://www.maff.go.jp/j/shokusan/sosyutu/GI/chiri_teki_hyouji_hou.html

※お問い合わせ先
農林水産省 食料産業局 新事業創出課（担当：菊地）
（03-6738-6319）

●-----●

++..... セミナーや補助事業等のお知らせ ++

=====

◆一般社団法人アグリフューチャージャパン主催「農業経営力養成講座 夏季セミナー」のご案内
【経営局就農・女性課】

=====

一般社団法人アグリフューチャージャパンでは、これからの農業界をリードする人材を育成するため、以下の日程で「農業経営力養成講座」を行います。本講座では、農業界の第一線で活躍する農業経営者のみならず、各界トップクラスの講師陣を迎え、先進的な農業経営の理論と実践を学ぶことができます。農業経営力養成講座の開催は今年で3年目になり、これまで研修を受講した方からは、この研修をきっかけに、「自分の経営を見直し、コスト削減や、輸出など新たな事業に取り組むきっかけになった」（農業者）、「経営に対する意識が変わり、農業・農政に関する情報収集を行い始めた」（農業大学の学生）など様々な動きが出てきています。

できるだけ多くの農業者の方にご参加いただけるよう普及指導員の皆様からお知らせいただきますようお願いいたします。なお、普及指導員の方の参加も可能です。

詳しい内容については問い合わせ先URLをご参照ください。

※本研修は、農林水産省の技術習得支援事業により支援しています。
＜開催日程及び開催場所＞

3日間コース
平成26年8月4日（月）～8月6日（水）

LMJ東京研修センター 特大会議室（東京都文京区本郷1-11-14小倉ビル2階）

7日間コース

平成26年8月23日（土）～8月29日（金）

共和会館（東京都台東区柳橋1-20-10 3階）

＜講座に関するお問い合わせ＞

一般社団法人アグリフューチャージャパン

TEL：03-5781-3750

URL：http://www.afj.or.jp/info/342/

※本記事に関するお問い合わせ先

農林水産省 経営局 就農・女性課（担当：羽子田、柏崎）

（03-6744-2160）

=====

◆フード・アクション・ニッポン アワード2014募集開始のお知らせ

【大臣官房食料安全保障課】

=====

国産農産物等の消費拡大の取組「フード・アクション・ニッポン（FAN）」では、私たちや未来の子どもたちが国産の食品を安心しておいしく食べていける社会の実現をめざし、国産農産物等の消費拡大に寄与する事業者・団体などの取組を広く募集し、優れた取組を表彰する「フード・アクション・ニッポン アワード」を今年も開催することといたしました。開催6回目となる2014年度は、受賞した取組を商談会や新聞広告、TV番組等により広く紹介し、更なる国産農産物等の消費拡大につなげていきたいと考えております。

なお、今回からは新たに推薦応募も可能となりましたので、地域の特徴ある取組の多数の応募をお待ちしています。

普及指導員の皆様におかれましては、本アワードの実施について幅広くご案内いただくとともに、地域の優れた取組をぜひご推薦いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

応募締切：平成26年8月11日（月）

詳しくはこちらをご覧ください。

<http://syokuryo.jp/award/>

※お問い合わせ先

フード・アクション・ニッポン アワード 2014実行委員会事務局

（0120-978-438）

農林水産省 大臣官房 食料安全保障課（担当：麻王）

（03-6744-2352）

=====

◆平成26年度契約野菜収入確保モデル事業の参加者の募集について

（野菜の契約取引に関する事業のお知らせ）

【独立行政法人農畜産業振興機構】

=====

（独）農畜産業振興機構では、現在、契約野菜収入確保モデル事業の参加者を募集しています（応募の締切：平成26年8月12日（火））。

普及指導員の皆様におかれましては、ご担当の地域に参加が見込まれる契約野菜の生産者等がおられましたら、本モデル事業を是非ご紹介いただきますよう、よろしくお願い致します。

○事業概要：

（1）収入補填タイプ：生産者等が、天候その他の事由により契約取引で見込んでいた収入が得られなかった場合に、補填を受けられる仕組み。

(2) 出荷促進タイプ：生産者等が、卸売市場で契約取引と同じ品目の野菜の価格が高騰している時に、契約に沿って出荷した場合に、補填を受けられる仕組み。

(3) 数量確保タイプ：中間事業者が、不作の時に、契約数量を確保するために契約取引と同じ品目の野菜を市場調達等した場合に、補填を受けられる仕組み。

(1) 及び (2) のタイプは、生産者、農業協同組合、生産者等が構成員となっている団体等、(3) のタイプは、中間事業者（流通業者、加工業者等）。

(独) 農畜産業振興機構 野菜業務部 直接契約課 担当：中野、小林
(03-3583-9817)